

Title	M. Krasner ノ論文ニツイテノ疑問
Author(s)	中山, 正
Citation	全国紙上数学談話会. 251 p.190-p.195
Issue Date	1943-03-19
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/75043">https://doi.org/10.18910/75043</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

### III. M. Krasner, 論文 = ツイテノ 疑問

中山 正 (名大)

Paris, C.R., 1938 年 = M. Krasner の  
「Une généralisation de la théorie locale  
des corps de classes.」 + ル表題, 下 = ミツ程, 論文  
ヲ著イテ居マス。ソレハ大体  $\mathfrak{p}$  進数体, 上ノ任意ノ拡大  
ヲ或ル種ノ方程式ノ集ヲモツテ特徴ザケテ云々スルノデ  
アリマスガ, 拡大体ヲ特徴ザケルノニ方程式ヲモツテ来ル  
ノデハ如何カト思フノデアリマスガ, 然レニ面白イコト  
モアリマス。

処ガソコデーニ一寸ドウモ変ニ思ハレル個所ガアリマ  
スヲ, ソノコトニツイテ御教示ヲ得タイト思フノデス。  
Krasner ノ他ノ論文ソノ他カラ見テモ, ガッチリシテ  
キテサウ間違ヒナドシサウニモナク思ハレルノデスガ, 従

ツテ小生、考へ違ヒカモ知レテセンガ、以下ソノ点ヲ述ベテ見マス。

先ヅ、 $k$ ヲ $p$ 進数体、 $p$ ヲソノ素いでやる、 $\pi$ ヲ素元： $p = (\pi)$ トスル、マタ $k$ 或ヒハソノ拡大体ノ元 $\alpha$ ヲ $p$ ル $p$ ノ中ノ位数ヲ $W(\alpha)$ デ表ハス。

採テ、 $g(x)$ ヲ $k = \text{オケル}$ 既約多項式ヲ最高係数 $g_0$ ガ $1 + v \in \mathbb{N}$ トシ、ソノ次数ヲ $n$ トスル、ソノ絶対項 $g_n$ 、 $W(g_n)$ ヲ $f$ トスレバ、 $g(x)$ ノ根ハスベテ $f/n + v$ ノ $p$ -位数ヲモツ、コノ事ヨリ直チニ

$$(1) \pi^{-f} g\left(\pi^{\frac{f}{n}} \cdot x\right)$$

ナル $(k(\pi^{-\frac{f}{n}}) = \text{オケル})$ 多項式ハ整係数ヲモツ、シカモ最高係数 $1 + v$ 。ソノ根ハイザレモ $p$ -位数 $0$ ヲアル。

コノヲ、特ニ $f > 0$ ヲ $f$ ガ $n$ ヲ割り、而カニ(1)ニ對シ

$$(2) \pi^{-f} g\left(\pi^{\frac{f}{n}} \cdot x\right) \equiv h\left(x^{\frac{n}{f}}\right) \pmod{p^{\varepsilon}} \quad (\varepsilon > 0)$$

ナル $h$ 、 $\text{mod } p$ デ既約ノ多項式 $h(y)$ ガ存在スルトキ、Krasnerハ原多項式ガrégulierナリト呼ンデナリ。

而シテ $g(x)$ ガコノ意味デrégulierナルトキ、 $f$ ヲ上記ノ意味トシ、 $e$ ヲ $n/f$ トスレバ、 $h = g(x)$ 、

スベテ

$$\pi = \tilde{\pi} \cdot \varepsilon \quad (\varepsilon \wedge K = \text{オケル単位})$$

ナル形ヲモツ。ソコデ或ル  $\pi = \text{対シ } K = f(\pi) + \text{リ}$   
トスル。而シテ  $\pi$  ノミマス  $f$  ノ既約多項式 ( $n = ef$   
次) ヲ

$$g(x) = x^n + g_1 x^{n-1} + \dots + g_n$$

トスル。ソノ根ヲ  $\pi_0 = \pi, \pi_1, \dots, \pi_{n-1}$  トスル。

然ラバ (1) 即チ

$$\pi^{-f} g\left(\pi^{\frac{1}{e}} x\right)$$

ハ  $\pi_i: \pi^{-\frac{1}{e}} (i = 0, 1, \dots, n-1)$  ヲ根ニモテ, (コレ  
ヲハ皆単位元デアール), 最高係数 1 デアル (従ツテ前  
述ノ如ク整係数) 而シテ  $g(x) \bmod \mathfrak{p}$  ヲ考ヘバ,  
コレハ  $\pi_i: \pi^{-\frac{1}{e}} \bmod \mathfrak{p} (i = 0, 1, \dots, n-1)$  ヲ根  
ニモツ。但シ  $\mathfrak{p}$  ハ今考ヘテキル凡ユル元ヲフクム或ル体  
ノ素いでやるトスル。コツテ若シ  $f = e = \text{於ケル } f$  次ノ多項  
式  $f(\pi)$  ガアツテ (2) 即チ

$$f(x^e) = \pi^{-f} g\left(\pi^{\frac{1}{e}} x\right) \bmod \mathfrak{p}$$

ナリトスレバ

$$f\left(\left(\pi_i: \pi^{\frac{1}{e}}\right)^e\right) \equiv 0 \bmod \mathfrak{p}$$

デナケレバナラス。然ルニ  $\pi_i = \tilde{\pi} \cdot \varepsilon_i$  ( $\varepsilon_i \wedge K$ , 單  
位) トオケバ

$$\left(\prod_i \pi_i^{-\frac{1}{e}}\right)^e = \varepsilon_i^e \equiv 1 \pmod{\mathfrak{p}}$$

(何者,  $e = q^f - 1$ ).

ヨッテ  $h(1) \equiv 0 \pmod{\mathfrak{p}}$  トナリ,  $h(y)$  ハ  $\pmod{\mathfrak{p}}$  デルタ既約デハアリ得ナリ.

コレハ  $K/k$  ガ必シモ *regulier* + 多項式, 根デハ得  
ラレナリコトヲ示シテキルト思フ.

次ニモウツ解ラナリ所ガアルノデスガ.

$K/k$  ヲ  $\{f, e\}$  型 (即チ剰余次数  $f$ , 分岐指数ガ  $e$ )  
ノ拡大トシ,  $f'$  及ビ  $e'$  ノソレゾレ  $f, e$  デ割レル自然数  
トスル. 然ルトキ, ソノ一組ガ  $\{f', e'\}$  型ノ拡大デ  
而モ  $K$  ノ拡大ナル如キ体ヲツクル処,  $k =$  於ケル  
*regulier* + 多項式ノ全体ヲ  $S_{K/k}^{(f', e')}$  デ表ハス.

Krasner ハコレニヨッテ  $K/k$  ノ特徴ヤケヨクト云  
フデアリマスガ, 上記ノ如ク拡大体必ズシモ *regulier*  
+ 多項式デ得ラレヌトナレバ, ソレハ一寸困ルヲケデアリマ  
スガ, ソレヲ一歩譲ッテ, 旨ク *regulier* + 多項式デ  
得ラレル体ノミヲ考ヘルヤウナ場合ニ限ツラモナリ次ノ  
点ガ兩方ハシナイデセウカ. 即チ彼ハ

「La donnée d'un quelconque de ces  
 $S_{K/k}^{(f', e')}$  définit, manifestement, l'extension  
 $K/k$  à isomorphisme pres (loi d'unicité)」

ト述べテキマスが、例へバ

$\ell$ , 上, 素数  $\ell$  次, 不分裂拡大  $W$ ,  $\times$  ハリ  $\ell$ , 上,  $\ell$   
次, 巡回分裂体  $K_1$  ヲ考へ,  $K_1 \times W = K_1 W$  ( $\ell$  上  $\ell^2$   
次,  $(\ell, \ell)$  型, あーべろ拡大) = 含まレル第三,  $\ell$  次,  
(巡回且ツ分裂) 体ヲ  $K_2$  トスル. 然ラバ  $K_1/\ell$  ヲ含ミ,  
 $\ell$  = 對シテ剰余次数, 分裂指数共 =  $\ell$  ナル体  $K'$  ハ  $K_1$   
ノ不分裂  $\ell$  次拡大即チ  $K_1 W$  シカ存在シナイ. 同様ナ  
コトハ  $K_2$  ニツイテモ云ヘル. ヨツテ増然

$$S_{K_1/\ell}^{(\ell, \ell)} = S_{K_2/\ell}^{(\ell, \ell)}$$

トナツテ, 上, 一意性ハ成立シナイ様ニ思ハレル.

---

以上二点或ヒハ小生ノ誤解カモ知レズ, 御教示ヲ得レ  
バ幸デアリマス。